

# 平成 31 年度 沖縄県立浦添工業高等学校 一般入学・第 2 次募集入学選抜基準及び選抜方法

## 1. 選抜基準

本校校長は、受検者の出身中学校長から提出された調査書、学力検査等の成績及び面接の結果を基にして選抜を行う。調査書と学力検査等の成績との比重は、5対5とする。

## 2. 選抜方法

### (1) 相関図の作成

#### (ア) 学力検査点の設定

受検者の学力検査の 5 教科の得点（300 点満点）の合計とする。

#### (イ) 内申点の設定

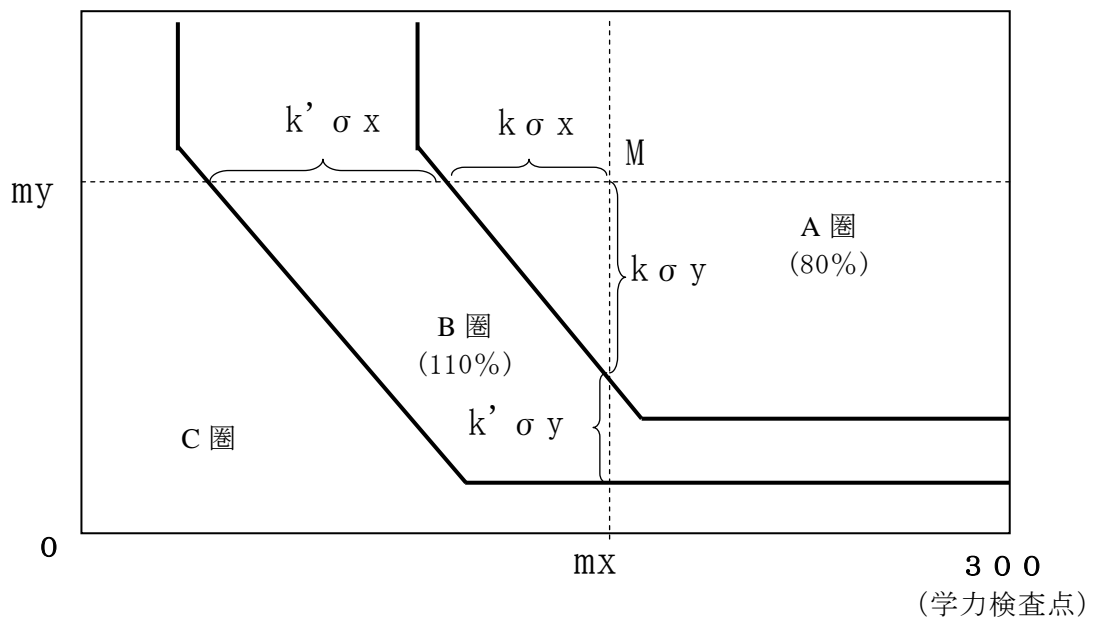
調査書を基に志願者の内申（5 段階評価）を 165 点満点で得点（以下内申点という。）化する。内申点の設定方法は、国語、社会、数学、理科、英語の 5 教科の評定を合計した数値と、音楽、美術、保健体育、技術・家庭の 4 教科の評定を合計した数値に 1.5 倍した数値との合計とする。

#### (ウ) 相関図

内申点を縦軸、学力検査点を横軸とした相関図をつくり、次の図のように各圏を設定する。

(内申点)

165



<備考>

$m_x$  : 学力検査点の平均点       $m_y$  : 内申点の平均点       $M$  : 内申点・学力検査点の平均点の交点

$\sigma_x$  : 学力検査点の標準偏差       $\sigma_y$  : 内申点の標準偏差

$k$ 、 $k'$  : 定数は、本校校長が決める。

斜線 : 傾きの程度は、受検生の内申点と学力検査点の標準偏差によって決まる。

#### (エ) 各圏の設定方法

- ① A圏  
本校の各学科内の受検生の内申点、学力検査点に基づいて募集人員(推薦合格内定者を除く、以下同じ)の80%程度の受検生が含まれるように範囲を設定し、これをA圏とする。
- ② B圏  
本校の各学科内の受検生の内申点、学力検査点に基づいて募集人員の110%程度の受検生が含まれるように範囲を設定し、それから上記のA圏を除いた範囲をB圏とする。
- ③ C圏  
本校の各学科内の受検生から、上記のA圏とB圏を除いた残りの受検生の範囲をC圏とする。

(2) 面接に関する評価

受検生全員に面接を実施する。面接の評価はA、B、Cで評価し、標準は「B」とする。

(3) 選抜の審議

(ア) 「A'」及び「B'」について

各学科内のA圏、B圏の受検生の中で、次の①から⑥の事項に該当する者は、「A'」、「B'」として同じ圏内の他の受検生と区別する。

- ① 中学3年生において、教科の成績に「1」を有する者
- ② 無届欠席・無届欠課・遅刻のいずれかが中学3ヵ年で合計10回以上の者
- ③ 学力検査において、1教科でも10点未満の得点を有する者
- ④ 面接で著しく本校の教育方針に反すると判断された者(面接評価「C」の者)
- ⑤ 長期欠席者(理由の如何にかかわらず、いずれかの学年で30日以上欠席がある者、または、中学3ヵ年を通して合計50日以上欠席がある者)
- ⑥ 問題行動の事実が判明した者

(イ) 志望学科が第2志望である受検生

第1志望の学科を不合格となり、第2志望の学科で合否判定の審議を受ける受検生は、第2志望の学科のB圏として扱う。また、この際、上記「2. 選抜方法 (3) 選抜の審議 (ア) 「A'」及び「B'」について」も適用される。

(ウ) 合格者、不合格者の決め方

次の①、②の順番で審議を進め、合格者、不合格者を決める。

- ① A圏の受検生から合否判定の審議を行う。
- ② A'、B圏、B' また推薦のあったC圏の受検生を含めて、合否判定の審議をする。

以上